

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)
【平成23年度】

資料3

(別紙1)

平成24年4月23日

協議会・構成員 上田市公共交通活性化協議会

上田市

上田バス(株)、千曲バス(株)

事業名	補助対象事業者等	事業概要	①事業実施の適切性	②目標・効果達成状況	③事業の今後の改善点
陸上交通に係る 地域公共交通確保維持事業 (地域内フィーダー系統)	事業者名:上田バス 運行系統名:信州上田医療センター線	上田駅~信州上田医療センター	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B いずれの路線も運行コスト目標390円以内に対し300円と目標を達成できた。収支率は3路線のうち信州医療センター線のみ82%と目標の75%を達成できたが、塩田線で16%、上田市街地循環バス(青バス)でそれぞれ19.5%と目標の38%を下回った。	路線バスに対する利用促進を目的に、ポスター作成、イベントバス(クリスマスイベント、ギャラリーバス)を実施し、今後も継続する。
	事業者名:上田バス 運行系統名:塩田線	上田駅~別所温泉			
	事業者名:上田バス 運行系統名:上田市街地循環バス(染谷丘高校経由)	上田駅~染谷丘高校前~上田駅			
	事業者名:上田バス 運行系統名:上田市街地循環バス(西上田駅経由)	上田駅~西上田駅~上田駅			
	事業者名:千曲バス 運行系統名:室賀線(下秋和発)	下秋和~上室賀	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 目標:各路線の運行コスト1kmあたり390円以内および収支率60%以上 達成状況:各路線の運行コスト1kmあたり室賀線375円05銭および収支率58%と収支率について目標を下回った。上田市街地循環バス・丸子地域循環バス287円88銭および収支率70.0%で目標を達成できた。	経費節減や利便性の向上について、今後も利用実態を注視し、利用者の声を反映させたダイヤの見直しを継続していく。
	事業者名:千曲バス 運行系統名:室賀線(上田新田発)	上田新田~上室賀			
	事業者名:千曲バス 運行系統名:上田市街地循環バス(西回り)	上田駅~西上田駅~上田駅			
	事業者名:千曲バス 運行系統名:上田市街地循環バス(東回り)	上田駅~染谷丘高校前~上田駅			
	事業者名:千曲バス 運行系統名:丸子地域循環バス(東回り)	センター~ベルプラザ前~センター			
	事業者名:千曲バス 運行系統名:丸子地域循環バス(西回りA)	センター~音楽村~センター			
	事業者名:千曲バス 運行系統名:丸子地域循環バス(西回りB)	センター~音楽村~センター			

【各評価項目の評価基準】

①事業実施の適切性

- A…事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された(されている)。
- B…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった(一部実施されない見込み)。
- C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった(実施されない見込み)。

②目標・効果達成状況

- A…事業が計画に位置付けられた目標を達成した(する見込み)。
- B…事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)。
- C…事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)。

平成23年度 上田市公共交通活性化協議会 地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）概要

上田市の概要

- ・平成18年3月に1市2町1村が合併
- ・人口 15万9千人(平成22年10月1日現在)
- ・面積 552平方キロメートル

上田市公共交通活性化協議会

設立年月日:平成20年3月14日

構成員:長野県 上田市 上田バス(株) 千曲バス(株) JRバス関東(株) 長野県バス協会 しのの鉄道(株) 上田電鉄(株) 長野県タクシー協会 千曲バス(株)労働組合 北陸信越運輸局・長野運輸支局 長野国道事務所 上田建設事務所 上田警察署 信州大学 上田女子短大 上小圏域障害者総合支援センター 上田婦人団体連絡協議会 豊殿地区循環バス運営委員会 上田市身障者協会 上小高等学校長会 上田市自治会連合会

事業概要

上田市におけるバス路線の集積点は、上田駅となっており、市域内に広範に路線バス、コミュニティバス等により構成される公共交通網が広がっている。これらの公共交通については、各地域からのバス路線が市街地に向かう唯一の移動手段として、高齢者等を中心に生活に必要不可欠な交通として機能している。しかし、少子高齢化の進展や人口の減少、マイカー利用を前提とした生活スタイルの定着等により、公共交通の利用は減少傾向にあり、維持存続が困難な状況が生じている。一方で、高齢化が進み、マイカーを自由に利用できない高齢者を中心に、公共交通へのニーズは高まりつつある。

従来自主運行してきたものの、収支の悪化により存続が困難となっている3路線について、地域公共交通確保維持改善事業により、持続可能な地域内交通を維持・確保を図る。

また、平成20年度以降実証運行を行ってきた上田市街地循環バス及び丸子地域循環バスについて、本運行による路線の維持・確保を図る。

協議会の主な取り組み

- ・市内公共交通の利用促進啓発
- ・主要駅における乗り継ぎ案内板の設置
- ・市内公共交通の時刻表(携帯用)作成・配布
- ・交通空白区域におけるフィーダー系統等の検討

平成23年度 上田市公共交通活性化協議会

地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持事業）概要

定量的な目標・効果

(目標)
上田バス: 各路線の運行コストを1kmあたり390円以内とする。信州上田医療センター線の収支率を75%以上、塩田線・傍陽線・市街地循環バスの収支率を38%以上とする。
千曲バス: 各路線の運行コストを1kmあたり390円以内とする。各路線の収支率を60%以上とする。

(効果)
各路線を維持することにより、地域住民の日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保される。上田駅等と接続することにより効率的な運行体系が実現でき、外出促進・地域活性化にもつながる。

協議会における検討

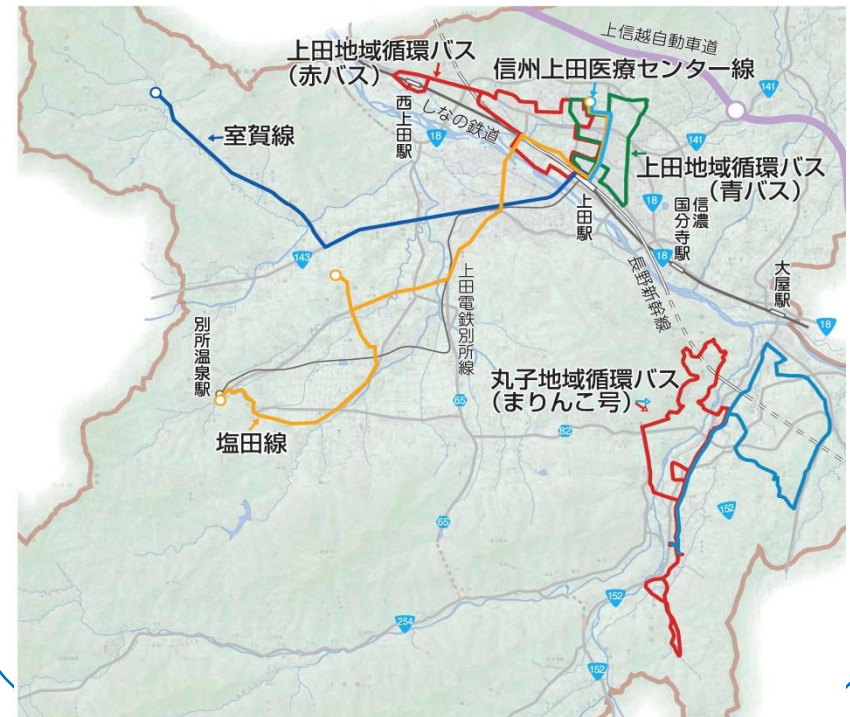
協議会の開催状況

- ・第1回(6月7日)ネットワーク計画を協議
- ・第2回(1月17日)ネットワーク計画の認定について報告

利用者等の意見の反映

本年度11月に路線ごとに利用者アンケート調査を実施した。
今後利用者の声を反映させていくため、運行経路や運行回数、ダイヤ等について検討を重ねていく。

運行系統図



平成23年度 上田市公共交通活性化協議会

地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持事業）概要

事業実施の適切性

塩田線、室賀線については、交通不便地域の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。上田駅等と接続することにより効率的な運行体系が確保されるとともに、高齢者等の外出支援、地域活性化にもつながる。

信州上田医療センター線については、上田駅と市内の中核拠点病院である信州上田医療センターを効率的に結び、病院通院者及び周辺住民の移動手段が確保される。

上田市街地循環バスについては、周辺住居地域と主要施設等とを結び、中心市街地への買い物需要や病院・高校等への通院・通学の利便性を確保する。丸子地域循環バスは、各地区と中心部とを結び、日常生活に必要不可欠な移動手段を確保する。

目標・効果達成状況

・塩田線・室賀線

交通不便地域の住民の日常生活に必要不可欠な移動手段の確保ができた。

・信州上田医療センター線

上田駅及び地域間幹線系統と上田市の中核拠点病院である信州上田医療センターを効率的に結ぶことにより、病院通院者及び周辺住民の交通手段の確保ができた。

・上田市街地循環バス、丸子地域循環バス

循環バスを運行することにより、周辺住居地域と市街地主要施設を結び、買い物需要や病院・高校等への通院・通学の移動手段が確保された。

事業の今後の改善点

ダイヤの見直し、経費削減や利便性の向上について、今後も引き続き利用実態を注視しながら、検討を進めていく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)
【平成24年度】

(別紙1)
平成24年4月23日

協議会・構成員 上田市公共交通活性化協議会
上田市
上田バス(株)、千曲バス(株)

事業名	補助対象事業者等	事業概要	①事業実施の適切性	②目標・効果達成状況	③事業の今後の改善点
陸上交通に係る 地域公共交通確保維持事業 (地域内フィーダー系統)	事業者名:上田バス 運行系統名:信州上田医療センター線	上田駅~信州上田医療センター	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。	B 3月時点での各路線の運行コストは342円となっており、各路線の収支率は信州上田医療センター線65%、塩田線24%、上田市街地循環バス17%という状況である。この数字を右記「③今後の事業の改善点」を実施することにより、年度終了時には目標が達成できるようにする。	バス利用促進を目的に設置した真田地域公共交通利用促進協議会の事業としてクリスマスイベント(チューリップなどの球根プレゼント)を行った。それに伴い、2両でイルミネーションバスを運行。また、真田地域の全保育園、幼稚園卒業園児の絵をバス車内に展示しギャラリーバスとして運行。これらイベントは今後も継続していく。また利用促進を目的にB2サイズのポスターを1000部作製。利用促進協議会の会員事業所や公共機関に掲出を行った。また上田駅前に利用促進の横断幕を設置。
	事業者名:上田バス 運行系統名:塩田線	上田駅~別所温泉			
	事業者名:上田バス 運行系統名:上田市街地循環バス(染谷丘高校経由)	上田駅~染谷丘高校前~上田駅			
	事業者名:上田バス 運行系統名:上田市街地循環バス(西上田駅経由)	上田駅~西上田駅~上田駅			
	事業者名:千曲バス 運行系統名:室賀線(下秋和発)	下秋和~上室賀	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。	B 2月時点での各路線の運行コストは室賀線370円69銭、上田市街地循環バス295円56銭、丸子地域循環バス295円56銭となっており、各路線の収支率は室賀線54%、上田市街地循環バス69%、丸子地域循環バス69%という状況である。この数字を右記「③今後の事業の改善点」を実施することにより、年度終了時には目標が達成できるようにする。	経費節減や利便性の向上について、今後も利用実態を注視し、利用者の声を反映させたダイヤの見直しを継続していく。
	事業者名:千曲バス 運行系統名:室賀線(上田新田発)	上田新田~上室賀			
	事業者名:千曲バス 運行系統名:上田市街地循環バス(西回り)	上田駅~西上田駅~上田駅			
	事業者名:千曲バス 運行系統名:上田市街地循環バス(東回り)	上田駅~染谷丘高校前~上田駅			
	事業者名:千曲バス 運行系統名:丸子地域循環バス(東回り)	センター~ペルプラザ前~センター			
	事業者名:千曲バス 運行系統名:丸子地域循環バス(西回りA)	センター~音楽村~センター			
事業者名:千曲バス 運行系統名:丸子地域循環バス(西回りB)	センター~音楽村~センター				

【各評価項目の評価基準】

①事業実施の適切性

- A…事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された(されている)。
- B…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった(一部実施されない見込み)。
- C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった(実施されない見込み)。

②目標・効果達成状況

- A…事業が計画に位置付けられた目標を達成した(する見込み)。
- B…事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)。
- C…事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)。

※定量目標を設定していない場合はアセスメント評価

・ルート ・ダイヤ ・整合性 ・バス競合 ・鉄道等競合 ・住民理解

- 1 非常によい
- 2 概ね良い
- 3 改善の余地がある
- 4 改善の余地が多いにある

平成24年度 上田市公共交通活性化協議会 地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）概要

上田市の概要

- ・平成18年3月に1市2町1村が合併
- ・人口 15万9千人(平成22年10月1日現在)
- ・面積 552平方キロメートル

上田市公共交通活性化協議会

設立年月日:平成20年3月14日

構成員:長野県 上田市 上田バス(株) 千曲バス(株) JRバス関東(株) 長野県バス協会 しのの鉄道(株) 上田電鉄(株) 長野県タクシー協会 千曲バス(株)労働組合 北陸信越運輸局・長野運輸支局 長野国道事務所 上田建設事務所 上田警察署 信州大学 上田女子短大 上小圏域障害者総合支援センター 上田婦人団体連絡協議会 豊殿地区循環バス運営委員会 上田市身障者協会 上小高等学校長会 上田市自治会連合会

事業概要

上田市におけるバス路線の集積点は、上田駅となっており、市域内に広範に路線バス、コミュニティバス等により構成される公共交通網が広がっている。これらの公共交通については、各地域からのバス路線が市街地に向かう唯一の移動手段として、高齢者等を中心に生活に必要不可欠な交通として機能している。

しかし、人口の減少と自家用車の普及により、市内においても公共交通機関の利用者は減少傾向にあり、収支の悪化により存続が困難となっている上田バスが運行する塩田線、信州上田医療センター線、傍陽線、千曲バスが運行する室賀線について、住民の通院・買い物等を中心とした生活に不可欠な路線として存続していくことが必要である。

このため、地域公共交通確保維持改善事業により、塩田線、信州上田医療センター線、傍陽線、室賀線の維持・確保を図る。また、平成20年度以降実証運行を行ってきた上田市街地循環バス及び丸子地域循環バスについても、本運行による路線の維持・確保を図りたい。

協議会の主な取り組み

- ・市内公共交通の利用促進啓発
- ・主要駅における乗り継ぎ案内板の設置
- ・市内公共交通の時刻表(携帯用)作成・配布
- ・交通空白区域におけるフィーダー系統等の検討

平成24年度 上田市公共交通活性化協議会

地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持事業）概要

定量的な目標・効果

（目標）

上田バス：各路線の運行コストを1kmあたり390円以内とする。信州上田医療センター線の収支率を75%以上、塩田線・傍陽線・市街地循環バスの収支率を38%以上とする。

千曲バス：各路線の運行コストを1kmあたり390円以内とする。各路線の収支率を60%以上とする。

（効果）

各路線を維持することにより、地域住民の日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保される。上田駅等と接続することにより効率的な運行体系が実現でき、外出促進・地域活性化にもつながる。

協議会における検討

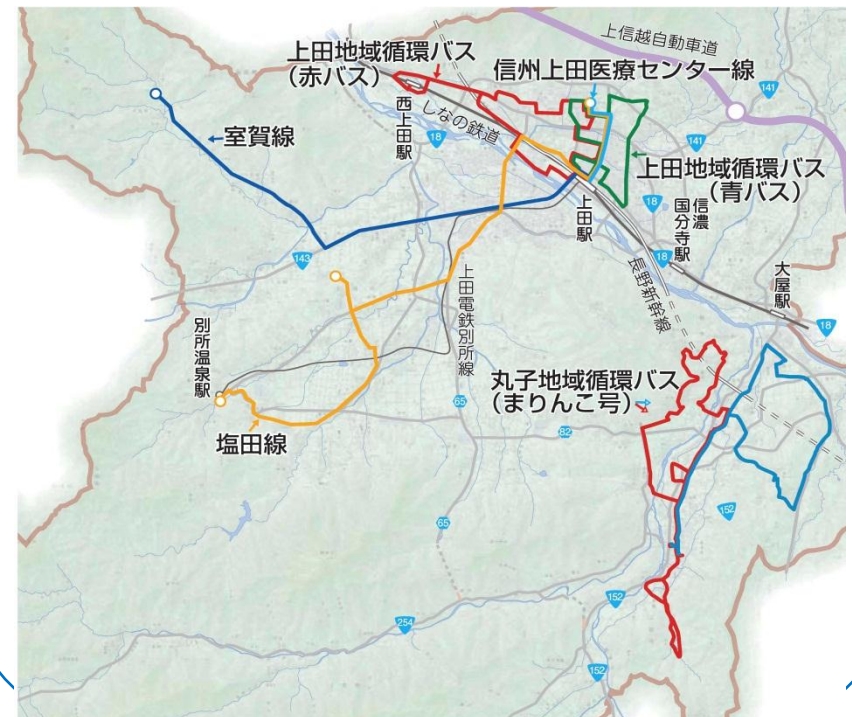
協議会の開催状況

- ・第1回(6月7日)ネットワーク計画を協議
- ・第2回(1月17日)ネットワーク計画の認定について報告

利用者等の意見の反映

本年度11月に路線ごとに利用者アンケート調査を実施した。

運行系統図



平成24年度 上田市公共交通活性化協議会

地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持事業）概要

事業実施の適切性

塩田線、室賀線については、交通不便地域の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。上田駅等と接続することにより効率的な運行体系が確保されるとともに、高齢者等の外出支援、地域活性化にもつながる。

信州上田医療センター線については、上田駅と市内の中核拠点病院である信州上田医療センターを効率的に結び、病院通院者及び周辺住民の移動手段が確保される。

上田市街地循環バスについては、周辺住居地域と主要施設等とを結び、中心市街地への買い物需要や病院・高校等への通院・通学の利便性を確保する。丸子地域循環バスは、各地区と中心部とを結び、日常生活に必要不可欠な移動手段を確保する。

目標・効果達成状況

・塩田線・室賀線

交通不便地域の住民の日常生活に必要不可欠な移動手段の確保ができた。

・信州上田医療センター線

上田駅及び地域間幹線系統と上田市の中核拠点病院である信州上田医療センターを効率的に結ぶことにより、病院通院者及び周辺住民の交通手段の確保ができた。

・上田市街地循環バス、丸子地域循環バス

循環バスを運行することにより、周辺住居地域と市街地主要施設を結び、買い物需要や病院・高校等への通院・通学の移動手段が確保された。

事業の今後の改善点

ダイヤの見直し、経費削減や利便性の向上について、今後も引き続き利用実態を注視し、継続していく。